

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00699

研究課題名(和文) 多読の実践を通じた日本語教師の言語教育観・言語能力観の変容に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Transformation of Japanese Language Teachers' Views of Language Education and Language Proficiency through the Practice of Extensive Reading

研究代表者

佐々木 良造 (SASAKI, RYOZO)

静岡大学・国際連携推進機構・特任准教授

研究者番号：50609956

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：多読に関する研究の多くは、多読を通じた学習者の言語能力の伸張や読むことに対する態度の変化に焦点が当てられているが、多読を実施する教員はほとんど研究の対象となっていない。本研究では多読を実施する教員に焦点をあて、多読授業後の振り返りの記述を分析の対象として、教員の言語教育観・言語能力観を質的に分析した。その結果、教室内多読において、教員は学習者に自律的に読むことを推奨する一方で、学習者に主導権を明け渡したり、教室内での学習者の振る舞いに戸惑うことがあることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、(1) 従来の研究で対象とされてこなかった多読実施者に焦点を当てたこと、(2) 多読授業後の振り返りの記述を質的に分析することによって、言語教育観の変容の一端を示したことにある。多読を推進するためには、多読学習材の充実や多読による読む能力の伸張を示すだけでなく、多読を実践する教員の振り返りを分析し、多読を実施する側に起こることを明らかにしたことが本研究成果の社会的意義であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：While most of the research on extensive reading has focused on the development of learners' language skills and changes in their attitudes toward reading through extensive reading, teachers who conduct extensive reading have rarely been the subject of research. In this study, we focused on teachers who conduct extensive reading and conducted a qualitative analysis of teachers' views on language teaching and language proficiency by analyzing their post-lesson reflections. The results showed that while teachers encourage learners to read autonomously in the classroom, they sometimes surrender the initiative to learners or are confused by learners' behavior in the classroom.

研究分野：日本語教育学

キーワード：多読 言語教育観 言語能力観

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

多読は教師の役割に大きな変化を求める学習方法であるにもかかわらず、多読の研究は学習者と学習材に関わる内容、読む能力の評価に関する研究、多読を経験した学習者の情意面に関する研究がほとんどであった。

研究開始当初、日本語教育に先行して多読が普及している英語教育の分野でも、多読における教師の役割については経験則の域を出ておらず、多読を実践した教師を対象とした言語教育観・言語能力観に関する研究は管見の限り見当たらなかった。日本語教育における多読でも、教員自身の言語教育観・言語能力観に言及している研究は管見の限り見られなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、多読の実践を通じた日本語教師の言語教育観・言語能力観の変容を明らかにすることによって、学習者中心の日本語教育に求められる教師の態度・資質・役割を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究課題応募時は、アンケート調査を通じてインタビュー対象者を募り、多読を実践している日本語教員を対象として多読における教師の役割についてインタビューを行う予定であった。しかし、COVID-19の拡大により、移動が制限され、対面インタビューを行うことができなくなった。代替として、アンケート調査による多読実施状況調査(多読を実施しない理由の質問を含む)を実施した。また、日本国内の大学で多読を実施する日本語教員1名の協力を得て、当該教員の多読授業後の振り返りの記述を対象として、質的に分析した。

4. 研究成果

本研究課題に関する主な研究成果として、以下の2点をあげる。

(1)佐々木・香月・鷹野(2022)「日本国内の日本語学校における多読実施状況調査」2022年度日本語教育学会秋季大会予稿集 p.235-p.240

(1)は日本国内の日本語学校を対象とした網羅的な多読実施調査である点に特徴がある。本調査の結果から、多読を実施している日本語学校では読む態度の変化や話す技能の伸張を評価しており、読む能力そのものは評価されていないことがわかった。これは読む能力の伸張を測ることが困難であり、教室内多読実施時に担当教員が直接見てわかること(熱心に・静かに読んでいること)が評価されたり、読んだ本の内容、つまり本を読んでわかったことの表出が評価されたりしていると考えられる。

多読導入上の問題点は、教材不足、時間不足だけでなく、多読実施時の教員の役割が不明瞭であることへの不安があることが明らかになった。教員の役割については日本語学校だけの問題ではなく、多読が広く受け入れられるためには、効果の定量的な検証だけでなく、教員の役割も明らかにする必要があることを示していると考えられる。

なお、(1)の調査は、2019年度末、2021年度末、2023年度末と隔年で3回実施した。今後、これらの調査結果をまとめ、発表する予定である。

(2)佐々木・鷹野(2023)「自己エスノグラフィーの分析を通じた教室内多読実施者の役割に関する考察」第32回小出記念日本語教育学会年次大会

(2)は多読を実施する教員を対象とした研究である点に特徴がある。(2)の研究では、教室内多読実施者の授業の振り返りを質的に分析することによって、授業時間内の主導権のありかたが多読実施の困難点になり得る点を指摘した。

授業は基本的に教員が常に主導権を握っている。故に主導権を学生に引き渡したり取り戻したりすることができる。教室内多読とは教員が主導権を握る授業時間のなかに、選書と持続的黙読という学生が主導権を握る活動が含まれている。教室内多読では、教員自身が授業の主導権の所在を理解すること、授業の主導権の明け渡しと引き上げのタイミングを判断することが求められると考えられる。このような多読における「教師の特異な役割」(Day, R. Richard and Bamford, 2006)については今後も研究の余地がある。

上記の他、(1)で述べた多読の効果を定量的に示す試みの1つとして、多読時の読み速度を調査したもの(佐々木 良造(2021)「教室内多読の読書記録に基づく読み速度調査」日本語教育方法研究会誌 vol.28,p.90-p.91,査読無)や、オンライン多読の実践報告(シースラパーノン・ウィパーウィー、佐々木 良造(2021)「タイ国内でのオンライン授業における多読の実践報告」,日本語教育方法研究会誌,vol.28,p.30-p.31,国際共著)、学部留学生を対象とした新書通読の実践(逢坂 里恵、佐々木 良造(2021)「学部留学生を対象とした新書通読課題の困難点」日本語教育方法研究会誌,vol.28,p.6-p.9)を行った。

そして、学習者による多読学習材の難易度とリーダビリティシステムによって算出された難易度を比較し、学習者の選書をサポートする提言を行った(尾沼玄也、佐々木良造、ウィパー

ウィー・シースラパーノン, ルフィ・ワヒダティ (2023) 「中上級学習者による多読学習材の主観的難易度評価と日本語文章難易度判定システムの結果の比較 学習者の選書をサポートするために」日本語プロフィシエンシー研究学会 2023 年度研究大会。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 ウィパーウィー・シースラバーノン, 佐々木良造	4. 巻 4
2. 論文標題 プレゼンテーション授業改善のための取り組み インプットとしての多読学習材活用の提案	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 タイ日研究ネットワークThailand研究論集	6. 最初と最後の頁 1~10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 佐々木 良造	4. 巻 28
2. 論文標題 教室内多読の読書記録に基づく読み速度調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 90~91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19022/jlem.28.1_90	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 シースラバーノン・ウィパーウィー, 佐々木 良造	4. 巻 28
2. 論文標題 タイ国内でのオンライン授業における多読の実践報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 30~31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19022/jlem.28.1_30	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 逢坂 里恵, 佐々木 良造	4. 巻 28
2. 論文標題 学部留学生を対象とした新書通読課題の困難点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 8~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19022/jlem.28.1_8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Karino Megumi, Sasaki Ryoza, Katsuki Yusuke	4. 巻 57
2. 論文標題 The Possibility for Teaching Portfolios in Japanese Language Teacher Training : A Study of the Teaching Portfolio as a Tool for Reflection	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Korean Journal of Japanese Education	6. 最初と最後の頁 5~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21808/KJJE.57.01	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木良造, Wipawee Srisurapanon, 門倉正美, 吉川達	4. 巻 1
2. 論文標題 字なし絵本から多読につなげる図書館活動 タイ・バンコクの幼小中高一貫校における取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 タイ日研究ネットワークThailand研究論集	6. 最初と最後の頁 p.90-p.102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 香月裕介	4. 巻 8
2. 論文標題 タイ人教師と日本人教師の協働を支える仕組みの検討ー正統的周辺参加論を手がかりにー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第8回日本語・日本文化フォーラム論文集	6. 最初と最後の頁 p.12-p.19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 香月裕介	4. 巻 5
2. 論文標題 実践における教師の立ち位置を規定するものー日本語教師の経験の現象学的分析からー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要	6. 最初と最後の頁 p.53-p.69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 佐々木良造, 鷹野恵
2. 発表標題 自己エスノグラフィーの分析を通じた教室内多読実施者の役割に関する考察
3. 学会等名 第32回小出記念日本語教育学会年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐々木良造, 香月裕介, 鷹野恵
2. 発表標題 日本国内の日本語学校における多読実施状況調査
3. 学会等名 2022年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鷹野恵
2. 発表標題 日本語教員の「態度」を身につけるケース学習とは 受講生のアンケートによる検討
3. 学会等名 日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鷹野恵, 佐々木良造, 香月裕介
2. 発表標題 模擬授業におけるピア・フィードバックの分析 - 教員養成段階での省察を促す場づくりのために
3. 学会等名 韓国日語教育学会・言語文化教育研究会共同開催2020年度国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥野由紀子, 佐々木瑞枝, 西口光一, 松田真希子, 門倉正美, 佐々木良造, 吉川達
2. 発表標題 何のための多読? すぐれた多読学習材とは? - 知的好奇心を刺激する多読学習材をめざして -
3. 学会等名 JSPS科研費18H00677公開パネルディスカッション
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鷹野恵, 佐々木良造, 香月裕介
2. 発表標題 日本語教師の省察を促す3つの試み
3. 学会等名 言語文化教育研究学会第7回研究集会(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 香月裕介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 432
3. 書名 日本語教師の省察的实践	

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本語多読に関する書籍・文献リスト https://nihongotadoku.wordpress.com/list/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	香月 裕介 (KATSUKI YUSUKE) (30758785)	神戸学院大学・グローバル・コミュニケーション学部・准教授 (34509)	
研究分担者	鷹野 恵 (KARINO MEGUMI) (60713352)	筑紫女学園大学・文学部・准教授 (37117)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
タイ	サイアム大学			
タイ	Roong Aroong 学園			